公益社団法人 静岡県山林協会

森と人

2015年
360
3月15日

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

■表紙写真　題名：色取りの里　撮影場所：天城道の駅　撮影者：武智　是朗 氏（小田原市）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：http://www.moritohito.jp

2 首長は語る(No.40)
伝統と資源を活かした町づくりに取り組む東伊豆

3 支部だより①
富士ヒノキの認知度アップのために

4 支部だより②
白砂青松の松林を守り、育て、未来につなげる

5 県庁だより①
森林（もり）づくり県民税による荒廃森林の整備

6 県庁だより②
森づくり県民大作戦をリニューアルします！

7 森林・林業研究センターだより(No.80)
森林・林業の施策課題解決に向けたセンターの取組について

8 本部情報

8 事務局だより

首長は語る No.40

伝統と資源を活かした町づくりに取り組む東伊豆

東伊豆町長　太田　長八

わが町の自慢

東伊豆町には、素朴な人情が残っています。厳しい伊豆の海で生活してきたため、言葉は上品とは言えないかもしれないが、人柄、面倒見はすこぶる良く、人とのつながり、絆を大切にする気風があります。また、古くからの伝統を重んじる町民性はこの町の財産だと思っています。

雛のつるし飾り

そんな伝統の一つに江戸時代より伝わる「雛のつるし飾り」があります。娘の幸せと健康を一針一針、古い端切れに想いを籠めた素朴なひな人形で、この風習も一時は下火になっていましたが、20年ほど前から「河津桜まつり」とのコラボにより観光客の誘致につながっています。

町では更なる誘客を目指し、京都静岡県人会の協力を仰ぎ京都の新たな夏の風物詩「京の七夕」に３年前から「雛のつるし飾り」を出展しています。

▲つるし飾り

オープン町長室

就任当初から、町の将来を担う商工会議所、農業協同組合、観光協会などの若手との自由な発想による意見交換会「オープン町長室」を毎月開催しています。

地域の活性化を担う人材の育成が主な目的ですが、それぞれの産業間の連携を図られ６次産業化につながればと考えています。

ダンスイベントの開催

そんな中から、民間主体の「NPO法人Goody'z」が創設され、地元青年部が一丸となってヒップホップダンスのイベントが既に３年連続開催されてきました。

▲ヒップホップダンス風景

全国で活躍するプロダンサーや県内外、主に伊豆の子供たちのダンススクールなど、全国からの愛好者1,000人規模のイベントとなっています。このイベントには東日本大震災の復興支援として、福島の子供たちも招待し、「希望、パワー、絆」を被災地の子供たちと共有出来たらと考えています。

アジア初のＯＭＭの開催

東伊豆には伝統文化だけでなく大自然も残っています。県内最大級125ヘクタールもの「ススキの草原」からなる細野高原は町の原風景でもあり、秋には一面黄金色に耀き、頂部からは相模灘や天気が良ければ伊豆７島も一望できます。是非、立ち寄って頂きたいスポットです。

▲ＯＭＭ風景

そんな細野高原と周辺の山岳地帯を活用した英国発祥の「オリジナル・マウンテン・マラソン（ＯＭＭ）」が昨年11月に開催されました。２人１組で食料や野営道具を背負い、指定されたチェックポイントを探して回るアドベンチャーレースで、全国の愛好者ら約600人が参加し、町の豊かな自然をアピールする絶好の機会となりました。今回がアジア初の開催でしたが、参加者が地形を覚えてしまうと競技が成立しなくなってしまい、残念ですが継続開催ができないとのことです。町としては、このレースに代わる新たな企画を要請するよう努力していきたいと思います。

おわりに

町長は仕事で疲れた体を癒し、気分転換図るため温泉にゆったりと浸かって明日への活力の源とすることが日課になっているとのことでした。

支部だより①

富士ヒノキの認知度アップのために

富士市　産業経済部林政課　栗田　明人

富士市からは、木目が細かく強度が高い「富士ヒノキ」の認知度を高め需要拡大につなげる取組ついて紹介していただきました。

富士市の林業について

富士市は世界文化遺産富士山の懐に抱かれ、麓では明治期より活発な植林活動が行われてきました。ほとんどがヒノキで、現在では民有林の約72％、人工林の約86％をヒノキ林が占めています。

これらの大半が林齢50年以上と伐採適齢期を迎えておりますが、昨今の材価の低迷による採算割れの状況、林業経営者の高齢化、若者の林業離れなど、全国共通の問題が富士市でも発生しており、それに伴って造林保育や伐採が進んでいないのが現状です。

富士ヒノキを売り出すには

現在、富士市では、周辺市町と一体となって、富士山麓で産出されるヒノキ材を「富士ヒノキ」としてブランド化し、普及に努めているところですが、富士市がヒノキの産地であることを知っている市民はごくわずかで、関心や認知度は今ひとつ高まっていないように感じられます。

そんな中、富士ヒノキをはじめとする地域で産出･加工された木材に関心を持ってもらおうと、平成21年度に市と森林組合、関係団体で構成する富士市地域材利用推進協議会を設置し、翌平成22年度から「富士地域材使用住宅取得費補助金」（富士ヒノキの家）事業をスタートさせました。

富士山の見えるまちに住む

この事業は、地域の森林環境を保全し、林業及び木材産業の振興に寄与することを目的とし、富士市内に延床面積80㎡以上の木造住宅を取得（増築も可）する市民に、1棟あたり30万円を補助する制度です。木材総使用量のうち、30％以上を富士市または富士宮市で生産･製材された「しずおか優良木材認証製品」材を使い、富士市内で営業する建築士・大工・工務店などによって施工する場合に適用されます。年間、先着40棟（平成22年度は25棟）に対し協議会による審査の上、補助金の支出を行っています。

初年度のみ、19棟の応募にとどまりましたが、平成23年度以降は毎年予定棟数の応募があり、消費税増税の駆け込み需要のあった平成25年度には予算を増額し、60棟に対し補助を行いました。

課題

この事業を行うことによって、木目が細かく強度が高いという特長を持つ富士ヒノキを、より多くの市民に認知してもらい、また木を使うことが森林の更新につながり、二酸化炭素削減効果が得られ、地球温暖化防止の一助となることを理解してもらえればと考えています。しかし、現状は補助金を「出す」、「もらう」だけで事業が完結してしまっており、果たしてどれだけの効果が得られているのか今後、施主へのアンケートや、製材・建築業者への聞き取り調査を実施するなどの取り組みが必要だと考えています。

今後に向けて

富士ヒノキをより多くの人に知ってもらうには、霊峰富士の山麓で生産された木材としての積極的なPR活動はもちろん、良質の木材であることをアピールをすることで、ブランド力をアップしていく必要があります。以前支部だよりでも紹介した、森づくり体験講座「杣人の四季」で富士ヒノキや広く林業への理解を深めてもらうほか、林業を支える若手の人材育成や、林業とは直接関係の無い加工品を扱う業者などとも協働することによって相乗的な効果を生み出し、富士地域の林業に明るい未来を切り開いて行きたいと思っています。

支部だより②

白砂青松の松林を守り、育て、未来につなげる

御前崎市　農林水産課

三方を海に囲まれた御前崎市からは、昨年オープンした道の駅「風のマルシェ御前崎」や海岸防災林再生の取り組みについて紹介いただきました。

御前崎市の魅力

御前崎市は、静岡県最南端の岬に位置し、北部は牧之原台地から続く広陵地帯、南部は御前崎灯台の建つ岬や遠州灘海岸の砂丘地帯など豊かな自然に恵まれたところです。また、三方を海に囲まれた景勝地でもあり、サーフィンなどのマリンスポーツも盛んで、他県からも多くの愛好家が訪れます。

また、御前崎港には多目的国際ターミナルがあり、海の物流拠点としての役割を担っており、近隣の富士山静岡空港と合わせ、陸・海・空の交通・物流の拠点として、将来に向けて大きく発展することが期待されています。

▲マリンパークの朝日

市域は東西約14km、南北約12kmにわたり、面積65.56k㎡、人口約34,000人の小さな市ですが、遠州灘と駿河湾に囲まれた温暖な海洋性気候で、日本屈指の日照量を誇り、太陽の恩恵を受け品質の良い農作物が育つ環境が整っていて、北部では茶の栽培、南部では露地野菜やいちごなどのハウス栽培が盛んです。

道の駅「風のマルシェ御前崎」

昨年４月にオープンした道の駅「風のマルシェ御前崎」では、地域で収穫された新鮮で美味しい農産物、地元ならではの惣菜、お土産品等が販売され、多くの観光客でにぎわっています。隣接の農業振興拠点施設の整備も着々と進み、地域農業の情報発信基地としての期待が高まっています。

海岸防災林再生の取り組み

遠州灘海岸には、約400年前に造られ、長い間守り、育てられてきた白砂青松の美しい砂浜と松林があり、潮風や飛砂などの害から住宅や道路、畑など市民生活を守る重要な役割を果たしています。この海岸林は、近年、津波被害を軽減するための防災林としての機能も期待されています。ここ数年、松くい虫や台風の塩害などにより、多くの松林が失われてしまいましたが、市による枯れ松の伐採や植樹だけでなく、企業や地元の自治会、保全林管理組合など多くの市民ボランティアも抵抗性クロマツや広葉樹の植樹などを行い、官民一体での海岸林防災林再生の取り組みが行われています。

▲ボランティア植樹

また、海岸林の大切さを後世に伝えるため、地元小学校ＰＴＡの手により結成された緑の少年団では、海岸清掃や海岸林の散策、海岸林の歴史についての学習が行われています。さらに、地域住民に身近に感じてもらおうと、海岸林の一部を公園や遊歩道として整備し、地域住民に憩いの場として提供しています。

海岸浸食による砂浜の減少や松くい虫、塩害による松枯れなど、海岸林を取り巻く現状は厳しいものがありますが、美しい松林や砂丘などの豊かな自然を、後世に伝えていきたいと思います。

▲白砂公園の花菖蒲

県庁だより①

森林(もり)づくり県民税による荒廃森林の整備
～森の力再生事業の9年間の成果と今後のあり方について～

交通基盤部　森林局　森林計画課

事業創設後９年が経過する「森の力再生事業」について、今までの成果と今後の展開を紹介していただきました。

事業の概要及び９年間の成果

県では、森林の有する「水源かん養」や「山地災害防止」などの「森の力」を回復するため、所有者による手入れが困難で緊急に整備が必要な荒廃森林について、平成18年度から「森林(もり)づくり県民税」を財源とする「森の力再生事業」により整備を進めています。

事業は、全額補助により、12,300ヘクタールの森林を10年間で整備する計画で、既に９年が経過しようとしています。

これまで強度の間伐や竹林の皆伐など整備を実施した面積は、全体計画の９割に相当する約１万１千ヘクタール（浜名湖の約1.7倍）にも及び、「森の力」は着実に回復しています。

上：H25(施工前)　下：H25(施工後)

▲竹林皆伐により樹種の多様化を促進
下田市吉佐美

事業は地域の活性化にも貢献

・雇用の拡大や山村振興に寄与

事業により毎年約220人の正規雇用が創出されています。また、これまでに135人が事業体に新規雇用(H25末現在)されています。

・意欲と実行力のある新たな主体が森林整備分野へ参入

この事業をきっかけにして、建設業、造園業及びNPOなどの計67者が、森林整備に新規参入（H25末現在）しています。

上：H22(施工前)　下：H25(施工3年後)

▲強度間伐により下層植生が回復
浜松市天竜区熊

新たな課題が顕在化

最終年となる平成27年度は、計画達成に向けて事業を着実に実施していきます。一方で、荒廃している森林は依然として見られます。

また、近年、想定外の集中豪雨の頻発や雪害、シカの食害による森林荒廃など新たな課題も顕在化しています。

▲平成26年2月の雪害状況
静岡市葵区梅ケ島

こうした中、市町や林業関係団体など各方面からは、事業継続の要望が寄せられています。さらに、外部評価委員会からの提言では「引き続き、荒廃森林の再生に取り組む」よう求められています。

このため、荒廃森林の現況調査や市町から顕在化する新たな課題などについて情報収集に取り組んでいるところです。

事業の今後のあり方について皆さんのご意見を伺います！

森林は、県民共通の財産であることから、県民全体で森林を守り、育て、活かす「森林との共生」を進め「森の力」を持続的に発揮する元気な森林をつくっていく必要があります。

県では、本年４月以降に県内各地でタウンミーティングを開催していきますので、森林（もり）づくり県民税と森の力再生事業の今後のあり方についてご意見をいただきますようお願いします！

タウンミーティングの問合せ先
森の力再生班　054-221-2613
又は各農林事務所森林整備課まで

県庁だより②

森づくり県民大作戦をリニューアルします!
～大作戦の通年開催及び静岡森づくり貢献認定制度～

くらし・環境部　環境局　環境ふれあい課

事業創設後15年が経過する森づくり県民大作戦について、今までの経緯とより活性化を図るためのリニューアルについて紹介していただきました。

森づくり県民大作戦の経緯

森づくり県民大作戦は、平成11年度の全国植樹祭の開催を契機に、森づくりNPO等との協働による森づくり活動として平成12年度から始まったものです。

当初は「春の森づくり県民大作戦」として、春の２ヶ月間だけでしたが、平成15年度からは「秋の森づくり県民大作戦」を追加し、開催してきました。

その後、活動が活発化し、平成23年度には24年に開催された「第36回全国育樹祭」のプレイベントとして１万人規模の行事を開催したことで、開始以来、参加者数が最大となりました。

ただし、その後は、実施件数は増加しているものの、参加者数は伸び悩んでいる状況です。

森づくり活動が活発になったことで内容が細分化し、初心者には選択しにくくなったことが一因と思われます。森づくり団体の皆様からも、参加者が固定している、新しい会員が入ってこない、との声が聞かれます。

リニューアルの内容

森づくり活動参加者の裾野を広げるため、また、各地域における森づくり団体の主体的な活動を推し進めることができるよう、以下のとおり、森づくり県民大作戦のリニューアルを行います。

①森づくり県民大作戦の通年開催

これまで森づくり団体の皆様には、春と秋の決められた期間中に行っていただいてきましたが、これからはより簡単に申し込みしていただけるよう、通年で開催できる体制を考えています。

大作戦への申し込み及び参加者募集を随時行うようになるため、これまで発行してきたパンフレット「森林イベント」に替え、県HP「森づくり情報」上でイベントを掲載し、参加者の募集をすることになります。

森づくり団体の皆様には、活動計画が決まりましたら、随時、県に大作戦参加を申し込んでいただきます。申し込みいただきますと、県はHP上に開催場所、日時、公募の有無等を掲載します。

ただし、県民の注目を高めるため、春、秋それぞれ、３ヶ月程度の重点活動期間は設定しますので、森づくり団体の皆様には引き続きこの期間の活動もお願いします（名称は従来どおり「春（秋）の森づくり県民大作戦」とする予定です）。

②森づくり貢献認定制度の設立

森づくり団体の活動タイプに応じた認定証を発行する「しずおか森づくり貢献認定制度」を設けます。

森づくり団体が、自ら活動内容や他団体との連携等、活動のタイプを設定し、知事が貢献証を交付するものです。

また、公益社団法人静岡県緑化推進協会は、貢献認定された団体に対し、資材、苗木代、保険料等、森づくり活動に必要な経費をタイプに応じ、定額を助成することを検討しています。

おわりに

今年度の大作戦参加者は、約28千人と、平成23年度以来はじめて増加に転じました。しかし、大作戦開始後15年が経過し、森づくり団体の自主的な活動が活発になるなど、様変わりしています。

県としても、今後も静岡県緑化推進協会と連携し、地域に密着した多用な活動の支援を行ってまいりますので、森づくり団体の多くの皆様の御協力をお願いします。

森づくり県民大作戦実績

	H12		H22		H23		H24		H25		H26	
	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数
春の大作戦	53	6,390	93	5,911	96	5,021	103	10,001	105	4,473	112	5,904
秋の大作戦	—	—	104	13,778	115	22,768	114	16,664	158	20,821	136	21,873
計	53	6,390	197	19,689	211	27,789	217	26,665	263	25,294	248	27,777

森林・林業研究センターだより No.80

皆伐後、天然更新は成功するか？

企画指導スタッフ　伊藤　やす絵

研究センターからは皆伐再造林を推進するための消力造林技術やシカ食害対策等の行政課題の解決に向けた「新成長戦略研究」について紹介していただきました。

はじめに

皆伐再造林を推進するためには、造林経費の削減と、林業種苗として魅力ある成長等の優れた品種の開発により、林業経営者の意欲を高める必要があります。

また、植林後の苗木のシカによる食害軽減、さらには、皆伐した木材の新たな需要拡大に向けた製品開発も必要です。

そこで、センターでは静岡県の森林・林業行政課題を解決するために、研究計画から成果の社会還元までを産学官によるプロジェクトチームを構成して戦略的に進める「新成長戦略研究」事業により３課題の研究を進めています。

今回は、現在進行中の３課題について、今年度の研究概要と取組をご紹介します。

森林・林業再生を加速する静岡型エリートツリーによる次世代省力造林技術の開発<H25～29>

林業の採算性を高めるため、高初期成長、高強度、少・無花粉の新たな品種の開発、コンテナ苗を使った再造林システムの実証等を全国に先駆けて行っています。

（本研究の３つの取組）

①再造林の低コスト化の実現（②③及びシカ被害軽減により、低コスト造林システムを構築する）

②エリートツリーを選抜して採種園を造成し、生産体制を構築する（エリートツリー選抜については、H25年度から、県内各次代検定林より選抜中。今後県の事業で採種園造成計画。）

③コンテナ苗を使った伐採から植栽までの一貫作業システムの開発（コンテナ苗の植栽、改良及び一貫作業システムの検証については、天竜森林管理署と連携して研究を進めている。）

▲コンテナ苗

イノシシと戦う集落づくりと森林づくりに必要なシカ管理に関する研究<H25～27>

シカ及びイノシシの生態情報、農林業被害評価、捕獲技術などを効率的かつ効果的に組み合わせた総合防除対策を普及し、被害を減少させることを目的に研究しています。

▲シカ捕獲用誘引式首くくりわな

（本研究の３つの取組）

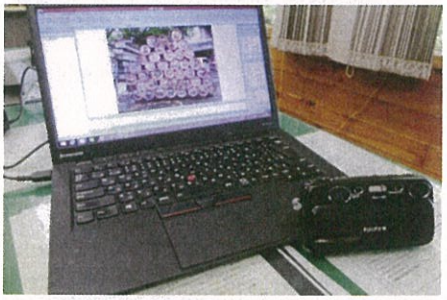
①鳥獣被害集計システム開発（H25システム完成、H26以降各市町に配布、普及、改良中）

②シカ雌雄判別キット製品化（H26共同開発会社より市販化、県の管理捕獲において雌雄判別に活用中）

③シカ誘引式首くくりわな開発（H25試作機完成、H26メーカーと共同研究、H27製品化販売予定）

“森林の都”を実現する県産材の需要と供給の拡大のための技術開発<H26～28>

IT技術を活用した原木の効率的な供給技術の開発や、県産材による新たな外構材等の開発により民間施設等への用途拡大を行い、県の森林資源の活用を促進するための研究をしています。



▲原木材積自動計測プログラム

（本研究の３つの取組）

①原木材積自動計測プログラムの作成（H27完成見込み）

②割れの少ない外構部材の開発

③木質空間デザインの提案と設計資料集の作成

おわりに

センターでは、これら３課題の他にも、シイタケ栽培技術開発、シイタケ原木林につく害虫対策、高効率化を目指した森林経営システム、早期森林再生技術、多機能海岸防災林用の苗木生産開発等々を行なっています。

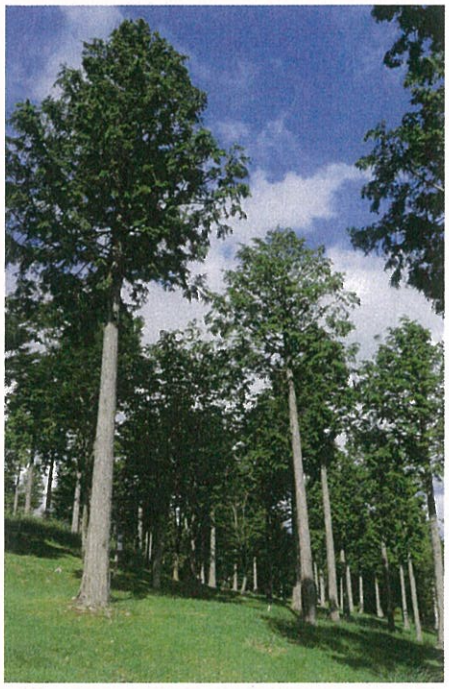
ホームページをご覧いただければ、全ての研究報告が見られるようになっていますが、近々改良予定であるため、４月までは少々不具合があるかもしれず、ご迷惑おかけしております。

今後も、各々の研究と施策の関係、森林管理の方向性などを関連付けてお伝えしていきます。

本部情報

ふじのくに「森林（もり）の都しずおか」PR冊子の発行

静岡県は、3,000m超の日本一の標高差による気候の多様性とともに様々な森林に囲まれています。この恩恵は、森林空間をレクリエーションの場として利用するほか、森林から得られる木材で様々な施設を建築してきました。



県では、多様な森林による環境と、林業などの経済活動、そして、森林や山村とのふれあいや交流を通じた文化などの調和がとれた「森林(もり)の都しずおか」づくりを推進しています。

今回、これらの環境・経済・文化に視点を置き、都市と山村の交流の一層の促進を図るためＰＲ冊子を発行することとなりました。山林協会も協会の目的に合致した取組のため発行に協力しています。

この冊子は、森林・名所紹介や森林（もり）びとの語りなどから構成されています。

森林・名所紹介では、環境・経済・文化を代表する場所や施設47カ所を紹介しています。

森林からは、白砂青松の「弓ヶ浜」や、全国的に貴重な「大瀬崎のビャクシン樹林」、原生自然が残る「寸又峡」など。

学習や自然体験ができる施設として、伊豆市の「昭和の森会館」や、富士山麓の「田貫湖ふれあい自然塾」、日本平の里山林「遊木の森」、天竜川の治山治水の功績を学べる「金原明善記念館」など。

木の良さに触れることができる木造施設として、日本を代表する文豪達に愛された「起雲閣」や、ギネスに認定された世界一の木造橋「蓬莱橋」、本格木造天守閣として蘇った「掛川城」などを紹介。

森林びとの語りでは、「森林の都しずおか」を創る人を代表して、富士山世界遺産センターの設計プロポーザルで最優秀に選ばれた建築設計の坂　茂氏、日本の伝統建築技術を学ぶことができる建築専門学校の吉江勝郎校長をはじめ、若手の林業従事者の森広志氏、北村利弥氏及び渡辺由貴子氏、環境学習の分野では松本美乃里氏などに、その想いや夢を語ってもらっています。

3月下旬発行予定ですので、この冊子を片手に、春の一日、森林浴や木造施設の温かみに触れる旅に出かけてみませんか？

問合せ先
静岡県森林計画課
（電話番号：054-221-2666）
静岡県山林協会
（電話番号：054-255-4488）

事務局だより

県庁内に保育施設

昨年12月、県庁西館２階に県職員や所用で県庁を訪れる来庁者らが利用できる乳幼児の一時預かり保育施設がオープンしました。生後6ヶ月から就学前の幼児が対象で、県職員も家族の都合の悪い時など利用できると喜んでいるとのことです。

17坪ほどの床面積ですが、県庁の執務室と違いフローリングや腰壁、窓枠など県産のヒノキ材が利用されています。採光も十分あり明るいオアシス的な雰囲気に包まれています。こんな施設がそれぞれの事業所に整備されると子育て世代の方も働き易くなるのではないでしょうか。　（橋本）

「森と人」編集・発行
公益社団法人
静岡県山林協会
静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489